

## 1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などに必要な専門教育を施すとともに、様々な接客サービスに関する知識、技能と高いプロ意識を持った人材の育成を持って社会に貢献する。

〈教育目標〉「学歴」よりも「何ができるか」が求められる時代において、「わかる」だけでなく「できる」人材を育成するために、下記の3点を教育目標とする。

1. 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得を目指す
2. グローバル化された社会に対応すべく、聞いて理解でき、話せる実践語学力の習得を目指す
3. すべての仕事に通じるホスピタリティマインド（おもてなしの心）の育成を目指す

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

文科省の「職業実践専門課程」の推進する過程において、実践的な教育力の強化、質的向上を目的とした就職活動に重点を置きそれらに裏付けられた学生募集活動の推進、成功により、学校経営の安定化を図る。

- ・英会話力の強化のための学習システムの成功と卒業研究制度の確立を推進する。
- ・各専門科目のテキスト化を推進し教員の研鑽を奨励することで、教育の標準化と教員の専門力向上を図る。
- ・求人企業180社を目標とし、就職希望者のうち、50%以上を目標優良企業へ就職させる。
- ・入学定員110名を確保する。
- ・学生の教育満足度を向上させる。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

### （1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
自己 総合評価		3.8

#### 成果と課題

- ・教育理念並びに教育目標や教育の特色は、入学前の「学校案内書」に詳細を記し周知を図るとともに、入学後は個人に配布される「学生便覧」に記載、入学直後のオリエンテーションにて学生全員に説明し周知を図っている。
- ・本校の教育の特色である基本教育（英語・マナー教育）そして専門教育については、同じく「学生便覧」「学校案内書」などに明示されている。
- ・将来の社会ニーズを踏まえた将来構想については、校舎の問題に拠るところが大きく、対応を現在検討中である。
- ・「学校案内書」「HP」「学生便覧」「求人案内」等を通して周知が図られており、学生・保護者に周知されている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界ニーズとの整合性については、「職業実践専門課程」の申請や実行を行う過程において、各企業からの教育アドバイスや提案をカリキュラムに反映することで、現実に即した人材育成の方向性がより明確になった。</li> </ul>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想として校舎の問題、それに伴う新学科及び現在の学科の見直しを喫緊の課題として具体的に取り組む。</li> <li>・教育の特長として掲げている英語教育における英会話教育システムを推進し成功を目指す。</li> <li>・就業後、人間力的にも実社会に適応できるような教育プログラムを取り入れる。</li> </ul>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>学校としての誠実な取り組みが理解できる。新校舎の検討に期待している。学食があると良い。社会、業界のニーズに合った教育を取り入れる事は、学生にとっても魅力的だと思う。実社会に適応できるよう、就職までに人間力、社会適応能力を高めて頂けると良いと思う。</p>

**学校関係者評価平均** 3.8

## (2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
自己 総合評価		4.0

### 成果と課題

例年通り科目の目標と授業方法、授業内容および教務規定に基づいた前期・後期の成績付けの基準を示したシラバスを授業の初めに配布し、学生に周知徹底した。また、法人内においてその情報を公開・共有することでグループ内の教育向上に努めている。さらに、当シラバスの実施状況が把握できるように教員の授業記録に併記する事も実施できた。各科のカリキュラムは、文科省の職業実践専門課程の運用に従い、年2回の教育課程編成委員会によりコース毎に関連業界団体と企業にご意見を頂きながら改定・推進を引き続き図っている。昨年は特に新人のメンタル管理が問題として挙げられた。専門科目テキストのオリジナル化をコース毎に最低1つ以上を推進し、平成30年度は各コース1冊以上のオリジナルテキストを使用している。年度初めに、授業科目の構成と資格取得について年間スケジュールを配布しながら学生にガイダンスを行った。また、変化する社会ニーズに応えるべく教員研修も積極的に行っており、職業実践専門課程の運用に従い企業への教員研修もコース毎に実施している。

### 今後の改善方策

科目関連をより明確にして学習の無理・ムラを避けるために、科目スキルリストを作成し、科目関連図を強化する。これにより

ある科目を受講するとどのようなスキルが身に付くかが明確になり、そのスキルが次のどのスキルのベースとなるのかを関連づけることができている。企業連携においては、企業の新人研修内容との連携を図るためにご教授を頂き、2年前から実施している卒業年次の卒業準備授業と卒業課題制作をより現実に合ったものに調整していく。

学校関係者 評価コメント

日々熱心にご指導いただいている。質疑などへの子供達への対応も素早くして頂いていると聞いている。ありがたい。

学校関係者評価平均 **4.0**

**(3) 教育成果**

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
自己 総合評価		<b>4.0</b>

成果と課題

就職率は、開校以来ほぼ100%を継続しており、2020年の東京オリンピックやインバウンド需要の増加に伴い、昨年度に引き続きホテル業界を中心に広範囲で多様な企業より求人が増加しているため、就職担当を増員した。資格取得については、1年次に全員が英検3級以上を取得し、TOEIC600点以上の取得者も増加させることができた。また、前年度の資格実績を一覧表にし、次年度以降の取得目標を作成した。また、退学率は昨年度の4.8%から3.4%に減少した。社会的な活躍評価については、卒業生は就職先企業から在校生は校内企業講演会やインターンシップ等でお世話になっている企業より把握している。また、積極的なボランティア活動も在校生の社会的な活動として評価している。

今後の改善方策

新社会人の早期退職増加傾向を受け、就職後3年以内の離職率の低下を図るための施策と調査を今後実施していきたい。また、学習環境のミスマッチによる退学者を出さないための方策をさらに考えていきたい。2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピックを機にボランティア活動を通して在校生の社会的貢献をより一層図っていきたい。

学校関係者 評価コメント

退学率の低減に真に取り組んでいることが改めて理解できた。

学校関係者評価平均 **4.0**

**(4) 学生支援**

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4

4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
自己 総合評価		<b>4.0</b>
<u>成果と課題</u>		
<p>ホームルーム担任制を徹底し、職員間の情報共有を基本に就職支援をきめ細かく実施している。</p> <p>入学時5月時点で個別面談をじっくり行い、相談内容によっては家庭との連絡を密にすることにより、学生の不安解消に対応している。経済的な支援については、学生奨学金機構との窓口を設置し、分掌として業務化することで遅延なく奨学金申請時の事務手続きをこなしている。特に入学後の申し込みについては、説明を丁寧に行って対応している。</p> <p>健康管理は、入学時の健康診断を入学後1週間以内に行い、経過観察の必要な学生については学校医との相談も行っている。登校後の保健室利用は極めて低く、感染性の疾病による休講処置も発生していない。</p> <p>保護者との連携は個人面談、カウンセリングの希望、個別の相談に応じて行っているが、特に問題となるケースは発生していない。また、欠席により、学習時間の補充が必要な場合は補講の申請を受け対応している。</p> <p>平成29年3月に8期卒業生を送り出し、同窓会は500名弱の規模になった。これに伴い、卒業生の状況アンケートを実施した。アンケート回収率は50%以上となった。転職をする卒業生、結婚により住所変更をする卒業生が出始めているため、今後の課題として再就職支援のサービスをホームページ等で告知することを検討している。</p> <p>高等学校に対する職業支援は、就職指導についてのスポット授業を依頼されるケースもあるため無償にて対応している。その際には、該当高等学校出身の学生、または、卒業生を同伴するケースもある。</p>		
<u>今後の改善方策</u>		
<p>学生の社会参加において、各種団体との連携を強化するとともに、現在実施しているボランティア活動への参画もより充実させることで、学生の社会性の育成にも積極的に取り組んでいきたい。</p>		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<p>同窓会誌的な物があると良いと思う。さまざまな支援体制が整っており、学習しやすい環境は評価できる。再就職支援の環境が充実することで、企業との繋がりがより深くなると思われる。授業時間外でもメールや面談などをしてくださる先生方の生徒への心配りに感謝している。</p>		
学校関係者評価平均		<b>4.0</b>

## (5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	3
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
自己 総合評価		<b>3.8</b>
<u>成果と課題</u>		
<p>講義室・実習室の管理者を組織図上で明確にし、これらを放課後等学生に開放している。教育用機器も頻繁に使用する物については教室に備えつけるようにし、iPad等新しい教育用機器の積極的な導入を行っている。防災に関しては、学生への訓練以外にも外部からの防災講座も実施した。休日・夜間警備はセコムのシステムを導入しており、開校日は職員が放課後に当番制で学内の見回りを実施している。</p>		

<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>学生の学習環境の充実として、電子黒板の導入、オンライン英会話実習設備等教育教材の充実や健康・防犯に関する学内分掌強化を図ることにより、健全で安全な教育環境を外部専門機関と連携して構築していく。</p>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>防災訓練の実施状況がわかった。授業外で災害が発生した場合の対応方法は決まっているのか。管理体制は整っている。学生の教育にストレスの少ない環境を作っていけると良いと思う。</p>

**学校関係者評価平均** 3.8

### (6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
自己 総合評価		4.0

<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学校案内書・募集要項は、情報量が多く、カリキュラムの詳細や就職指導の方法、コース別・期別の必要経費なども掲載されている。</li> <li>・募集活動は、月1回のペースで説明会や体験入学を行い、学校の教育方針や授業内容、施設設備の見学、就職状況の公開など志願者が必要とされる情報を詳細に公開している。</li> <li>・教育成果としての就職状況についても開校以来の就職先企業や内定状況を学校案内書等で公開している。</li> <li>・学納金は、私立学校として、将来の学校運営への布石やイレギュラーの事態に対応できる程度の収益を確保することができるものとなっている。</li> </ul>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>教育方針をよく理解した上での入学を促進し、入学希望者個々の目的意識や適性、意思力を見極め、より良い就職成績を実現し、入学生の質的向上を目指す募集活動を実行することにより学校運営の適正なサイクルを回すことに重点を置いていきたい。</p>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>特になし。</p>

**学校関係者評価平均** 4.0

### (7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4

7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
自己 総合評価		4.0
<u>成果と課題</u>		
<p>学校運営についての業務は組織化され、分掌業務の配分も適切に行われている。特に、定型業務については、職員の業務能力の拡大を期待し、主担当・副担当を置く組織を形成し主担当の不在時での対応も考慮されている。</p> <p>業務については、稟議・予算執行・報告事項・勤怠管理等がすべて電子システム化されている。教務日誌においても電子化されているため、職員間の情報共有は毎日確認されている。ハラスメント委員会を学生及び職員に告知しているが具体的な問題、相談事項は発生していない。災害・消防計画が整備され、訓練は9月に校舎を共有する静岡産業技術専門学校と連携し実施している。なお、訓練には非常勤講師も参加できている。</p> <p>職員の人事評価システムは法人組織で一元化され、組織目標・個人啓発目標の設定を基に整備されている。監事監査及び会計士監査を定期的実施し、会計処理の適正について高い評価を受けている。また学校法人のホームページにおいても財務情報をすべて公開している。平成29年度の予算については、理事会承認後計画的に実施し、事業計画(電話設備更新、公用車購入、学内LAN無線システムリプレース他)について、すべて実施済みである。</p> <p>また、退学者数の減少等により平成29年度の決算は、平成28年度決算と比較し、大幅に収支が改善している。</p> <p>(事業活動収支差額比率＝平成27年度△4.38%→平成28年度1.05%、平成29年度9.64%)</p>		
<u>今後の改善方策</u>		
引き続き平成30年度においても計画的に予算執行を行うと同時に、退学者数の減少及び入学定員を確保することで安定した経営基盤を築いていく方針である。		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
特になし。		

学校関係者評価平均 4.0

## (8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
自己 総合評価		3.7
<p><u>成果と課題</u></p> <p>ホスピタリティを重んずる教育理念のもとに、地域のボランティア活動に積極的に参加をしている。また、近隣への貢献としては、学生による清掃活動などを通し身近なボランティア活動を継続的に実施している。</p> <p>留学生数は全学生数の3割で日本語学校卒業者を中心に受け入れている。生活面での指導は個別に行っている。特に在留資格更新等の法令厳守と、出席率の向上について指導の成果が出ている。出席率の向上は、成績面での成果をもたらすため、教育成果も併せて向上している。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>留学生指導を担当する教員に対しては、在留資格手続業務のスキルを必須として更に研修参加を必要とする。また、定住・永住等の資格を持った学生の入学が増加している中で、日本語のスキル向上を要する学生もみられる。今後は留学生に限らず、日本語学習を補完する柔軟なカリキュラムを追加する必要がある。</p> <p>留学生の就職については、一般求人が増加する中で、海外からの技術研修制度による人材確保が急増している。このためか、留学ビザの学生の就職については、N1（日本語上級）取得が前提となっている。難関な資格であるため、到達しない留学生に対する進路確保の多様化が必要である。</p>		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <p>特になし。</p>		

学校関係者評価平均

3.7